

JICA海外技術研修員を受け入れました

JICA（国際協力機構）の海外技術研修として、タイ王国首都圏水道局の研修員が日本の水道技術を学びに来ています。研修期間は今年5月～来年3月の10か月間。その内12月9日から1週間という短期間ですが、当企業団の広域水質管理センターで水道水質管理の実務を学んでいただきました。

取材は研修の初日に伺いました。

研修の様子を見学させて頂きましたが、とても熱心に講師の職員に質問をしていました。講師の職員も慣れない英語で必死に答えていたのが、印象的でした。



研修の合間に、インタビューの時間を取らせていただきタイと日本の水道の違い、そして日本に来た感想等についてお話を伺いました。

日本に来てまず驚いたところは、「おはようございます」や「お疲れ様です」、「いただきます」「ごちそうさまでした」等、多くのことが挨拶から始まること。そして、仕事の後に一緒に食事をする機会が多いことにも驚いたそうです。『コミュニケーションとても大切！』と楽しそうに語ってくれました。

浄水の仕組み自体は日本とタイの間に差はありません。

しかし地形や川、気候の違いで抱える課題が異なるということがお話を聞いているうちにわかってきました。タイでは、川の濁度が高い、藻類、河川への海水の流入等が課題となっているそうです。特に雨期と夏の期間中は藻類にとっても悩まされると言っていました。

また、日本ではポンプを多く使うことにも驚いたそうです。タイは日本と違い平坦な地形なので、ポンプが必要な場面がほとんどないと言っていました。

今後も日本が培ってきた技術が世界の水道に活かされるよう、国際研修などへも積極的に協力していきたいです。

